

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100511		
法人名	有限会社 ヤマギシ企画		
事業所名	グループホーム入江 1階		
所在地	釧路市入江町8番29号		
自己評価作成日	平成25年1月16日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0174100511-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護の専門家の養成に力を入れております。正社員13名全員が実践者研修を修了しております。実践リーダー研修にも3名が修了。介護福祉士の痰灸吸引の資格も2名が持っております。認知症のかたならどんな人もケア出来る様な高い目標をもって、更に職員のスキルを高めます。職員の離職率は今でも低く、今まで当ホームの実務経験だけで8人のケアマネ、11人の介護福祉士が誕生しています。更に職員が勉強、向上出来る様な環境作りに努めます。介護事業は一般ビジネスと明らかに違います。利潤は社会のお礼だと思ひ、常に世の為、人の為という概念を忘れないで働きます。また職場の人間関係を大切に、それが離職の原因に決してならないように上司・同僚にもどんな事でも話ができるようななごやかな雰囲気作りを心掛けています。また利用者にとって、GH入江で本当に良かったと思えるようなケアに徹します。そして家族と本人の意向を聞きながら利用者が喜びと感謝を抱いてこの世を去る事の出来る様な終の棲家をつくりあげます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成25年2月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社・事務所・病院・高齢者住宅・一般住宅が混在する産業地域に位置し、近くには自然豊かな公園があり利用者はオヤツを持って散歩に出かけている。全職員で話し合い作成した独自の理念の下で、職員は利用者の尊厳を守り、一人ひとりの生活歴を生かした役割を持ってもらい、張り合いと喜びある日々を過ごせるように工夫をしながらケアを行なって、利用者同士が助け合いながら生活を共にしている。職員育成にも力を入れており、認知症ケア研修、ターミナル研修を行なうなど積極的に取り組み、家族・医師・職員の連携と協力の下、相談やカンファレンスを重ねてターミナルケアを経験した。医療連携も良く3医療から訪問診療が来ている。それぞれの医師による月2回の往診があり、訪問看護もあり、それらが家族からの信頼へとつながり家族の安心となっている。職員同士のチームワークも良く普段からサポートをしながら、利用者の尊厳のある、その人らしい生活が出来るよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員一同で作直し、会議の際の唱和をはじめ、何か問題があったときは理念に沿っているかどうかを考え行動するようにしている。職員一同暗記するようにしています。	理念の「利用者の尊厳を守り、笑顔で日々を過ごせるように支援する」を管理者と職員が一体となり共有し実践に繋げている。会議で理念を持ち回りで唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度は利用者が町内会の行事に参加しております。小学校の児童がホームを訪問して、歌や楽器演奏、又はホーム周りのゴミ拾いをしてくれています。	町内会行事には利用者と職員と一緒に参加している。事業所行事に地域住民が参加し、夏祭りには近くの他の事業所の利用者と職員も参加するなど地域交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の人に、スーパーで店員に、小学校で児童と先生に、ホーム長が講師となって、認知症サポーター養成講座を開催しました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年、外部評価が確定してから、詳しく皆さんの前で説明しており、委員からの意見にも耳を傾けケアの向上に心掛けています。	町内会役員・家族・包括支援センター職員が参加して2カ月に1度開催している。事業所や利用者の近況報告を行い、地域の高齢者についての意見交換を行うなどしている。意見はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協会の役員もしており、連絡、情報交換に取り組んでいます。また研修等を通して釧路市内のケアの向上に貢献しています。	日頃より管理者やホーム長は市担当者や包括支援センター職員と連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ施設です。グループホームとしてプライドを持って適切なケアに心掛けています。	身体拘束を行わない宣言をしている。内部研修の充実を図り、身体拘束の防止をはじめ人権を尊重したケアの実践に向けた取り組みがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	道東ブロックでは各種の研修が年間10回以上開催されており、職員の意識は高く、虐待が見逃される機会は極めて低い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用している利用者があり、職員の関心は高い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	後日トラブルが起らないように、特に重要事項説明書を中心にご理解を得るように、説明に心掛けております、		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議などで、公に家族の発言する機会があります。事務所前にご意見箱を設置しましたが、一度も意見が入っていたことは有りません。訪問時の会話から要望や意見を類推するようにしている。	家族会の中で意見交換したり、来訪時には必ず職員が声かけをして家族の意見や要望を聞くようにしている。また意見や要望があれば返答をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度面接をして、職員の意見、要望などを聞いている。当ホームは会議でも普段でも、何でも話せる雰囲気があり、職員の意見を出来る限り反映されている。	年1度は個人面談を行なっている。管理者やホーム長に対して日常から自由に意見を言える雰囲気があり、また会議の中の職員間においても同様である。ケアについては利用者を一番に考え、よい意見は直ぐ取りいれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当ホームは介護福祉士11名、介護支援専門員を8名輩出しております。更に育った職員の為に新規事業を立ち上げようとしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員全員13名が実践者研修を修了しており、研修は可能な限り、受けて貰っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道東ブロックでは各種の研修が年間10回以上開催されており、ホーム間での知り合いも多く交流も盛んである。お互いに近所のホーム同士で夏祭りなど行事の際、招待し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のニーズを的確に把握する為、本人の基本情報をしっかりと読んで確認する。また現在の言葉、様子、表情などを観察して、一日も早く馴染みの関係になる様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	はじめの確認状況が大切なので、お互いの要望を確認し合い、円滑にホームの生活を送れるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望を聞きながら、本人の病状に合う、病院、主治医、他のサービス等を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の理念に則り、出来る事はやって貰う。利用者は生活者なので、なるべく自分の家でできるようなことをホームでも再現出来る様なケアに心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、ホーム訪問時、自室で話すだけでなく、居間で他の利用者、職員と共に時間を過ごして頂けるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの利用者の状況によって違いますが、自分の家に行ったり、周りの馴染みの食堂に行ったりなど、思いが出来るだけ叶うような支援に心掛けています。	訪問理美容は何年も来て馴染みになっている。利用者が住んでいた自宅を訪問したり、本人本位に支援を行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合わない者同士が対立しないように、席の配置や位置、言葉かけなど注意してりいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退所した人は特養に移った二人を除いて、全員死亡しており、殆ど付き合いはない、しかし何人かの家族がお祭りに来てくれたり、パッドなどを持参してくれる方がおられる。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉を記録し、更にアセスメントを行って希望や意向を把握しています。職員一人ひとりが利用者の行動、言葉、表情、動作などを観察し、本人の思いの把握に努めている。	日常生活の関わりの中で利用者の暮らし方の希望や意向を把握し職員で共有して、介護計画にも反映させて、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	適切なケアプランを作成する為にどれも必要なものばかりです。面談時、入所直後は特に力を入れて、本人の情報把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に本人の言葉-青、病状や身体状況-赤、他の記録-黒、と3色に分けて現状把握に努めており、記録に合わせて、フロー会議で意見交換もしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者はケアプランを作成し、フロー会議でスタッフ全員が目を通し、意見を交換している。日々の生活の中で気付いた事、出来る事が出来なくなった事や、ヒヤリハットなどを会議以外でも話し合い、最新のケアプランに生かすようにしている。	担当制をとってアセスメントを基にして全員が関与して作成した介護計画を、定期的にモニタリングをして、月1度のカンファレンス等を通じて利用者にとって最適な介護計画になるよう検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録をスタッフ全員が記入し、全員が目を通す。日々の申し送り、会議の際の話し合いに生かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の全額負担でデイサービスに行ったり、又ボランティアを利用してコミュニケーションを図ったり、好きな事が出来る様に支援しております。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に、利用者も参加したりして、地域の中の生活者として、認められるように支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、皮膚科、歯科、訪問診療等の往診があります。最近往診医を増やし、本人、家族、の要望、状況により利用者のニーズに応える事が出来る様になってきている。	本人や家族の希望を尊重し、かかりつけ医への受診は家族や職員が対応している。三科の医師が訪問診療に来てくれているので、徐々に往診に変更している利用者が増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康記録を参考にして、訪問看護師より、健康についてのアドバイスを受けれる状況です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が長引くほど、ADLが落ちるので出来る限り早く退院できるように、いつもお願いしています。また病院の相談員等と道東ブロックの空室状況を通して普段から情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、と話し合いをホームで看取る場合の文書を作成して、承認印をもらっています。	契約時に終末期の事業所方針を説明している。重度化時には家族の意向や希望に沿って医師と話し合いを重ね、情報を職員などと共有して終末期対応をした事例が少なからずあり、家族や地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。外部講師による看取りケアの研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、病院で訓練を受け、ホームに戻って他職員にも技術を伝えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年町内会にも参加して貰い防火避難訓練を行っています。また地震や水害等の災害に対しても講習会に参加し、職員にも対応の仕方を共有している。	年2回、夜間帯も想定して消防職員や地域住民が参加して防災避難訓練を実施している。非常時の備蓄食料やガスコンロ、ストーブなども備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当ホームで一番大切にしていることで、理念の中で一番先に来ることであり、職員全員認識しているはずで。	言葉掛けに注意し利用者の感情をを損ねないよう注意をしよう。残存能力を生かすよう促しがし尊厳確保につなげている。法令遵守ほか権利擁護など人権擁護について研修を行っている。	人格を尊重したケアを一層進めるために、・接遇に関するの研修などを実施して、更に知識とスキルを深めることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示出来る方は勿論、意思表示できない方に対しても、日常生活を共にしている経験を生かし観察類推しながら、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全などの観点から仕事を優先する事もありますが、起床時間、食事時間など個別対応しています。また散歩、買い物など出来る限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する服、また季節に合った服装が出来る様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価			
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢者の楽しみの一つは食べる事だという事を、職員一同理解しております。食事の準備はもやしの髭とりが多いが、食器の片付け、茶碗拭きなど、利用者のADLに応じてお手伝いして貰っています。			能力に応じ買物、後片付けなど出来ることを職員と一緒にやっている。事業所の畑で取れた野菜を食卓に上げて、職員と一緒に楽しんで食事をしている。メニューを管理栄養士に点検してもらっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の確保に職員一同力を注いでいます。また健康状態を確認しながら量の調整、硬さ、トロミの調節など心掛けています。						
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員一同全員に支援しております。						
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どうしても握まり立ちできない人を除いて全員トイレ内での排泄支援をしている。			トイレ排泄を基本とし個々の排泄状況を把握しながら声かけや、誘導を行い自立に向けたトイレ排泄の支援を行なっている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、全員に牛乳をだし、出来るだけ水分を摂って貰う、下剤だけに頼らない排便状況にする為、軽い運動、又食材にも気を配っている。						
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は大体決まっていますが、要望があれば対応しています。						
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れが見られる時は休息を促し、夜間は室温や光、音などで安眠を妨げないよう注意しています。						
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の目的等を理解していませんが、生活記録、会議等を通して職員の知識の向上に心掛けている。						
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが思い、思いに過ごせる環境に心掛けております。最近ADLがどんどん落ちてきており皆で一緒に活動する事が少なくなってきました。楽しい会話を増やすようにしています。						

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事でお花見、温泉、外食、運動会、学芸会、ドライブ等、その他各人の希望に沿って外出支援している。行事以外にも、その日の会話の中から、ドライブしたり、ケーキを食べに行ったりもしています。	暖かい日は近くの公園に散歩に出かける。利用者の希望で買い物を職員と一緒にしたり、畑仕事をしている。時には車で日帰り温泉や動物園、花見に出かけて季節を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人の残存能力に合わせて一万円以内でお金を保持している方もおります。又事務所で各人のお小遣いを預かっており、各自の買い物を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各人の能力、ご家族の要望に合わせて支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室や壁面を利用し、季節を実感できる飾りつけを時季に合わせて実施しています。又毎年、ひな祭り、端午の節句の人形を飾り、クリスマスツリーなど飾っております。冬場は特に湿度管理に注意し換気、加湿器の調整をし、直射日光が当たらないようにし、利用者さんが会話を楽しんだり、テレビを観たりしてくつろげる空間作りに心がけている。	居間に加湿器を設置し温・湿度に気をつけている。行事写真や利用者の作品が壁に飾ってある。椅子やテーブルが車椅子の通行の障害にならないように設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の長椅子等、ダイニングチェア、玄関前に一人用いす7脚、事務所前に簡易椅子セットがございます。各人がおのおの気になった者同士で過ごしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症が有る為、入所の際は馴染みのある家具を推奨しております。家具の他、愛着のある物、お気に入りの備品などを持ってきて貰っております。	ベッドの人、布団を敷いて寝る人など生活習慣を大切にし、馴染みの物・使い慣れた物を居室に置き、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式の書類を使ったり、して本人の残存能力を見極め、自立支援に心掛けております。		